

中小企業における女性への事業承継の障壁要因と承継後の事業成長要因に関する研究

黒澤, 佳子 / KUROSAWA, Yoshiko

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

242

(発行年 / Year)

2023-03-24

(学位授与番号 / Degree Number)

32675甲第581号

(学位授与年月日 / Date of Granted)

2023-03-24

(学位名 / Degree Name)

博士(政策学)

(学位授与機関 / Degree Grantor)

法政大学 (Hosei University)

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00026675>

博士学位論文
論文内容の要旨および審査結果の要旨

氏名	黒澤 佳子
学位の種類	博士（政策学）
学位記番号	第 837 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件	本学学位規則第 5 条第 1 項(1)該当者(甲)
論文審査委員	主査 教授 橋本 正洋 副査 教授 井上 善海 副査（学外）駒澤大学教授 小野瀬 拓

中小企業における女性への事業承継の障壁要因と
承継後の事業成長要因に関する研究

I 著作内容の要旨

1. 本論文の目的と意義

黒澤佳子氏の学位請求論文「中小企業における女性への事業承継の障壁要因と承継後の事業成長要因に関する研究」（以下、本論文と呼ぶ）は、中小企業の事業承継問題が深刻化し、後継者確保に苦慮する中小企業にとって、女性への事業承継の機会が増え、今後、女性への事業承継への期待が高まることが予想されるが、女性への事業承継は男性と比較して準備期間がとれない傾向にあり、企業経営経験が少ない中で行われることが多い。そのような女性後継者に対し円滑に事業承継が行われる環境を整えるだけでなく、承継後の事業存続さらには事業成長が重要ではないかというのが本研究の問題意識である。

本研究では、女性に事業承継した中小企業に焦点をあて、事業承継前後における障壁要因を明らかにした上で、女性に事業承継した中小企業の事業成長要因は何かを多面的に調査・分析されている。女性への事業承継において、準備期間がどのように影響するのか、中小企業の特性を踏まえて、女性に事業承継した中小企業の事業成長要因を明らかにし、今後の女性への事業承継の促進および女性後継者が取り得る成長戦略の選択肢を増やすことに寄与することを研究目的としている。

2. 本論文の構成と内容

2.1 本論文の構成

本論文の構成は次の通りである。

第1章 序論

- 1.1 研究の背景と問題意識
- 1.2 研究目的と研究の枠組み
- 1.3 用語の定義
- 1.4 論文構成

第2章 中小企業の事業承継に関する先行研究レビュー

- 2.1 先行研究レビューの枠組み
- 2.2 中小企業の事業承継研究
- 2.3 事業承継の類型
- 2.4 大企業と中小企業の事業承継上の相違点
- 2.5 後継者選定と正統性の確保
- 2.6 事業承継の準備と準備期間
- 2.7 事業存続と革新性
- 2.8 ファミリービジネス研究との関係性
- 2.9 小括

第3章 女性経営者に関する先行研究レビュー

- 3.1 女性経営者の就任環境と課題
- 3.2 男性経営者と女性経営者の特性の違い
- 3.3 女性後継者研究の位置づけ
- 3.4 女性起業家研究からの知見
- 3.5 女性起業家支援
- 3.6 ジェンダーバイアス
- 3.7 小括

第4章 ファミリービジネスに関する先行研究レビュー

- 4.1 ファミリービジネス研究の視点
- 4.2 ファミリービジネスにおける事業承継
- 4.3 ファミリービジネスにおける女性後継者研究
- 4.4 ファミリービジネスにおける女性の役割
- 4.5 小括

第5章 先行研究の限界とリサーチクエスション

- 5.1 先行研究の限界
- 5.2 リサーチクエスションおよび分析視座
- 5.3 リサーチデザイン

第6章 予備調査

- 6.1 女性と事業承継の記事データ分析
- 6.2 女性への事業承継の類型
- 6.3 女性後継者の事業承継プロセス分析

第7章 女性へ事業承継した中小企業の特徴

- 7.1 分析目的
- 7.2 前提となる知見
- 7.3 女性後継企業の特徴をあらわす指標
- 7.4 男性後継企業と女性後継企業の比較分析
- 7.5 親族内承継と親族外承継の比較分析

第8章 女性への事業承継における障壁要因

- 8.1 分析目的
- 8.2 前提となる知見
- 8.3 調査概要
- 8.4 インタビュー調査結果
- 8.5 分析結果

第9章 女性後継企業の事業成長要因

- 9.1 分析目的
- 9.2 前提となる知見
- 9.3 調査概要
- 9.4 インタビュー調査結果
- 9.5 分析結果
- 9.6 小括

第10章 考察

- 10.1 定量調査の考察
- 10.2 障壁要因に関する考察
- 10.3 事業成長要因に関する考察

第 11 章 結論

11.1 女性後継者の事業成長メカニズム

11.2 学術的貢献

11.3 実務的貢献

11.4 政策提言

11.5 本研究の限界と今後の研究課題

参考文献

付録

2.2 論文の概要

本論文は、第 1 章から第 11 章までの全 11 章で構成されている。その概要は、以下のとおりである。

第 1 章では、中小企業における事業承継および女性経営者の現状分析を行い、中小企業の事業承継の実態を把握した上で、大企業と比較して経営資源に乏しい中小企業の事業承継における課題を明らかにしている。女性経営者を取り巻く環境について課題を示した上で、研究の背景と問題意識、研究目的と研究の枠組みを述べ、中小企業における女性への事業承継に関する研究の社会的意義を示し、本研究で用いる用語の定義をした上で、本論文の構成が示されている。

第 2 章では、本研究における先行研究レビューの枠組みを示し、中小企業の事業承継研究のレビューが行われている。中小企業の事業承継研究に関しては、「事業承継の類型」「大企業と中小企業の事業承継上の相違点」「後継者選定と正統性の確保」「事業承継前の準備と準備期間」「事業存続と革新性」の視点でレビューされている。

第 3 章では、女性起業家を含む女性経営者に関する先行研究を、「男性経営者と女性経営者の特性の違い」「女性起業家研究からの知見」「ジェンダーバイアス」の視点でレビューし、女性起業家支援における女性後継者支援の可能性を模索するなどの現行各種支援策のレビューも行われている。

第 4 章では、海外のファミリービジネス研究の中で、事業承継に関する先行研究レビューが行われている。「ファミリービジネスにおける事業承継」「ファミリービジネスにおける女性後継者研究」「ファミリービジネスにおける女性の役割」の視点でレビューされている。

第 5 章では、第 2 章、第 3 章、第 4 章の先行研究レビューから得られた知見と先行研究の限界を示し、リサーチクエスション（以下、RQ）が設定されている。また、RQ ごとの分析視座をもとにリサーチデザインが示されている。

第 6 章では、予備調査として、事業承継に関する記事データを分析し、事業承継に関する関心事、女性への事業承継に関する関心事を、テキストマイニングにより比較分析されている。さらに、記事データから女性後継者を抽出し、事業承継の承継タイプを類型化するとと

もに、女性後継者のプロフィール分析の結果が示されている。

第7章では、男性後継企業と女性後継企業の比較分析をはじめとする定量調査の結果が示されている。男性へ事業承継した企業と女性に事業承継した企業の個票データについて、企業属性や経営者属性、財務指標の観点で比較し、女性後継企業の特徴を明らかにしている。その差が統計的に有意と言えるかの検定を行い、事業成長を示す指標の導出を試みている。その上で、女性後継企業の親族内承継と親族外承継を分ける要因について、プロビット回帰分析の結果が示されている。

第8章では、中小企業の女性への事業承継における障壁要因について、7社に対し定性調査が行われている。インタビューガイドに従い、「後継者のプロフィール」「事業承継に至る経緯」「事業承継時の課題」「事業承継後の課題」についてインタビュー調査を行い、「事業承継プロセスと準備期間」「後継者が事業承継しやすい環境」「先代とのコミュニケーション」「人的ネットワーク」「従業員教育および育成」「時代に即した経営戦略」を視点として、分析し結果が示されている。

第9章では、第8章の分析結果を踏まえて、中小企業における事業承継後の事業成長要因について、女性に事業承継した中小製造業3社に対する定性調査が行われている。「家族と本人の役割」「前経営者との違い」「承継後に実施した社内改革」「承継後の事業戦略」「今後の方向性」についてインタビュー調査を行い、「前経営者の存在が新事業展開に及ぼす影響」「客観性や人材育成における優位性が新事業に及ぼす影響」について分析した結果が示されている。

第10章では、第7章の定量調査の分析結果、および第8章、第9章の定性調査の分析結果をもとに、女性に事業承継した中小企業の障壁要因および承継後の事業成長要因の考察を行い、RQに対する結論が導かれている。

第11章では、第10章の考察に基づき、女性後継者の事業成長メカニズムを提示し、本研究の成果と政策提言、今後の研究課題が示されている。

II. 審査結果の要旨

1. 審査経過

政策創造研究科では、2022年11月に黒澤氏の申請を受けて、学位論文審査小委員会を設置した。2022年12月18日、2023年1月14日に、黒澤氏からの口頭説明を受け、審査委員との質疑応答を行い、2023年1月24日に公聴会および最終試験（口述試験）を行った。これを踏まえて、審査小委員会として学位を授与することが適当であるとの結論に達した。

審査委員は以下の3名である。

橋本正洋（法政大学大学院政策創造研究科教授）主査

小野瀬 拓（駒澤大学経営学部教授）副査 外部委員

井上善海（法政大学大学院政策創造研究科教授）副査

2. 評価

2.1 論文の成果

本研究は、中小企業の事業承継の問題に関し、女性へ事業承継する企業に着目したものであり、研究分野としての意義がある。ここでは、女性後継企業の特質をあげ、対象となる中小企業 7 社について詳細な調査と分析を行った。その結果、準備期間の短さ、ロールモデルの少なさなどから事業承継への障壁となるものが明らかになった。一方、女性経営者、女性後継者ならではの事業承継の円滑さ、周囲の理解・協力の得やすい環境がビジネスにプラスの効果があることも示し、学術的貢献があるといえる。

また、実務的貢献としては「女性視点」の経営を特筆し、その特徴を明らかにすることで、今後やむを得ず事業承継をする女性後継者の取り得る事業戦略の選択肢を示すことができた。

以上のように、学術的および実務的な成果を上げることができている。

2.2 残された課題

以上のように黒澤氏の論文は、学術的な寄与においても、また女性に事業承継した中小企業の障壁要因および承継後の事業成長要因に関する実践的な提言という点での寄与においても、多くの成果を認めることができる。しかし、残された課題もある。たとえば、審査会では、次のような点が指摘されている。

本研究は事業承継する中小企業に絞った検討を行っているが、政治家等の個人事業者や大企業の事例など調査範囲を拡大して検討することも可能ではないか、女性後継者に限定した議論を行っているが、男性後継者でも同様の課題があり得、今後その共通性と差異を分析すべきではないか、等である。

しかしながら、この課題はあくまで今後の研究の発展への期待であり、本論文の成果をなんら損なうものではない。

3 結論

以上のように黒澤佳子氏が提出した学位請求論文は、学術的な寄与においても、また政策提言という点においても、オリジナリティと実務的な価値が認められ、博士号の授与に値するものと考えられる。

本論文審査小委員会は、委員全員の一致した意見として、黒澤佳子氏に博士号（政策学）が授与されるべきであるとの結論に達した。